

【C分科会】

生涯学習の基盤としての学校図書館

《C-中・高 発表2》

「本との対話を育む学校図書館—内言の表出を目指して—」

広島県 東広島市立磯松中学校

1 はじめに

本校は、八本松町西部、古くからある田園地帯と工業団地・新興住宅が混在する丘陵地帯に位置する、生徒数 469 人、学級数 15（特支 2 学級含む）の中規模校である。東広島市では、市内全中学校に学校司書が配置されており、本校でも学校司書を中心に数々図書に関するイベントを実施することで図書館の利用者及び貸出冊数を伸ばしている。毎日の朝読書の実施や、各種図書館イベントの実施、学校図書館の本から選択した読書を長期休業中の課題とすること等により、本に触れる機会を多く設定してはいるものの利用者は固定化しており、生徒によって貸し出し冊数の差も大きい。

これからの情報社会、昨年度からのコロナ禍により加速した「一人一台タブレット学習」の導入等により、学校教育の中にも情報化の波が押し寄せている。情報を取捨選択し、活用する能力の重要性が叫ばれる中、いかに自分の知りたいことを手にできるか、生涯にわたって「学びたい」と感じた時に学ぶ方法を身につけることができるかが重要ではないかと考えた。

2 研究の概要

(1) 「本との対話」を深めていくために

- ・環境整備
- ・授業支援
- ・東広島市公共図書館との連携
- ・読書の幅を広げる
 - ▶図書館展示、イベント

(2) 内言の表出を目指して

- ・「思い」を「言葉」にする
- ・「磯中ミニビブリオバトル」

3 成果と課題

東広島市公共図書館との連携により、今まで興味の薄かった分野への興味が出てきたようで、その後紹介本の貸し出しがあった。これまで漫然と本を読むことが多かった生徒も「本から学ぶ」意識が持てたことが、ビブリオバトルでの発表内容で確認できた。自分の読みを、社会に出ても通用するような読みに近づけていく第一歩となることに期待したい。

これらの取組内容が「生涯学習の基盤」となるかどうかは、生徒たち自身がこれからの生涯の中で経験していくことであろう。生涯の中で経験する様々な節目や行事、出来事において、図書館が情報収集・活用場として選択肢の一つとして機能するよう、これからも生徒の興味関心に寄り添うことのできる学校図書館の整備を進めていきたいと考えている。